

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	大平 英樹	所属	名古屋大学大学院環境学研究所 社会環境学専攻心理学講座
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 45名 (うち認定心理士 1名) 非会員 28名 (うち認定心理士 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p><b>【研究集会】</b></p> <p>目的：精神神経内分泌免疫学に関する最新の知見の共有、研究者間の交流を深めることで共同研究を行う機会を促進することを目的とする。また、若手研究者に積極的に研究発表の機会を与えることで若手研究者の育成に努める。</p> <p>成果：平成26年6月28日に第19回研究集会を福島県飯坂温泉福住旅館にて、平成27年3月28日に関西福祉科学大学にて第20回研究集会を開催した (別紙プログラム参照)。第19回研究集会では、3題の研究発表に加え、福島県立医科大学浄土先生、産業技術総合研究所の甲斐田先生をお招きし、また第20回研究集会では3題の研究発表と関西福祉科学大学の倉恒先生による講演が行われた。それぞれの研究集会では、精神神経内分泌免疫学における最新の知見についての情報交換はもちろんのこと、他領域の専門家も交え活発な議論が行われた。また、本研究領域における現状と問題点について議論することで今後の問題点が明確化された。</p> <p>将来計画：今後は第21回研究集会を企画することで、さらなる情報、研究手法・技術の共有化、研究者間の連携を強めることを目指す。</p> <p><b>【日本心理学会第78回シンポジウム】</b></p> <p>目的：生理心理学的指標を用いた最新のストレス研究から、ストレス研究における生理心理学の意義について検討することを目的とした。</p> <p>成果：日本心理学会第78回大会において『ストレス研究における生理心理学の意義』と題したシンポジウムを開催した。生理心理学 (津田氏、田中氏) と人間工学 (野村氏) の立場から最新のストレス研究が紹介され、生理心理学的指標の必要性が述べられた。指定討論者である坂野氏からは臨床現場の視点より生理心理学の限界と可能性に関する指摘がなされ、ストレス研究における生理心理学の意義、さらには今後の発展について議論が行われた。</p> <p>将来計画：日本心理学会第79回大会に精神神経内分泌免疫学と認知・意思決定をテーマとしたシンポジウムを開催予定である。</p>		

2015年 3月 29日

日本心理学会研究会

2014 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会

研究会番号 研14018

助成金額 ¥50,000

年月日	項目	金額
2015年3月28日	第20回 PNEI研究会 講演謝礼 (倉常弘彦先生)	¥30,000
2015年3月28日	第20回 PNEI研究会 発表謝礼 (渡邊映理先生)	¥3,000
2015年3月28日	第20回 PNEI研究会 発表謝礼 (杉浦悠子先生)	¥3,000
2015年3月28日	第20回 PNEI研究会 発表謝礼 (高橋美樹先生)	¥3,000
2015年3月29日	返金 (日本心理学会)	¥11,000
支出合計		¥50,000